

架け橋期を通じて学びや生活の基盤を  
育み、持続可能な社会の創り手となる  
力の基礎を育むために

～日野町保学連携推進計画第3次改定に向けて～



日野町立日野学園校長

砂流 誠吾

1. 日野町の概要
2. 日野町保小連携推進計画（改訂版）
3. 架け橋期のカリキュラムの必要性
4. 架け橋期のカリキュラム開発の実際
  - （1）架け橋期のカリキュラム開発会議での議論
  - （2）ワーキンググループでの取組
  - （3）架け橋期のカリキュラムとスタートカリキュラム
5. 保育所と学校の連携
  - （1）保育所・学校連絡協議会とその取組
  - （2）所長・校長会
  - （3）その他
6. 本年度の取組の成果・課題
7. 次年度に向けて  
～第3次日野町保学連携推進計画の策定

# 1. 日野町の概要

## 日野町の教育

### 《基本理念》

まちを愛し 未来を創る 人づくり

### 《教育目標》

ふるさとを愛し 心豊かに  
たくましく羽ばたく 日野の子の育成

### 《めざす子ども像》

- ふるさと日野町を誇り、地域とつながり 未来を創る子ども
- 夢や希望、目標に向かって、主体的に学ぶ子ども
- コミュニケーション力、豊かな人間性を持つ子ども
- 心も体も健康で、たくましく生きる子ども

町の花「ツツジ」



町の木「スギ」



面積 133.98km<sup>2</sup>  
人口 2,535人  
世帯数 1,217世帯  
(令和7年11月1日現在)

町の鳥「オシドリ」



オリジナルキャラクター「しいたん」

※日野町HPより転載

# ひのっこ保育所の概要

- (1) 保育所名 日野町立ひのっこ保育所
- (2) 所在地 鳥取県日野郡日野町津地 6 9 0
- (3) 開所年月 平成 1 7 年 4 月
- (4) 保育の理念 自分らしく生き抜く力をつちかう
- (5) 児童数 4 0 名 ※令和 7 年 1 1 月 1 日現在
- (6) 保育目標 思い切り遊べる子ども  
自分や友だちを大切にする子ども  
自分の思いが表現できる子ども  
「やってみよう」とする子ども
- (7) 保育方針 様々な経験を通して自己を発揮し、毎日が楽しいと感じる保育



# 日野学園の概要

- (1) 学校名 日野町立日野学園
- (2) 所在地 鳥取県日野郡日野町野田 2 7 1
- (3) 開校年月 令和 5 年 4 月
- (4) 校種 義務教育学校
- (5) 校訓 向学・友愛・誠実・自主
- (6) 児童生徒数 1 0 1 名（前期課程 7 0 名、後期課程 3 1 名）

※令和 8 年 1 月 1 日現在

- (7) 学級数 1 0 学級（うち特別支援学級 1 学級（前期課程））
- (8) 教育目標 進んで地域と関わるとともに、自他を尊重し、  
目標を掲げ生き生きと学び活動する児童生徒の育成
- (9) 学校教育推進の基盤  
コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施  
教育DXの推進



## ひのっこ保育所⇔日野学園の位置

距離：約1.5km

移動にかかる時間：車 3分  
徒歩 20分



# 2. 日野町保小連携推進計画（改訂版）

## 日野町における保小連携のあゆみ

平成17年	黒坂小学校と黒坂保育所とで、「学びの基礎を育むプログラム」策定 ひのっこ保育所開所
平成23年	保育所の所管を健康福祉課から教育委員会事務局教育課に移管 「日野町子ども15年プラン」策定、保小中一貫教育開始
平成24年	日野町保小連携推進計画策定、アプローチ・スタートカリキュラム開始
平成28年	日野町教育振興基本計画（第Ⅱ期）策定
平成29年	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育 要領、小学校学習指導要領 改訂
平成30年	日野町保小連携推進計画（改訂版）策定 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の位置付け
令和3年	日野町教育振興基本計画（第Ⅲ期）策定
令和5年	義務教育学校「日野学園」開校

# 日野町保小連携推進計画（改訂版）『保小連携プログラム』

日野町保小連携推進計画（改訂版）

## 保小連携プログラム

保小接続カリキュラム・園児、児童の交流活動・職員の連携・交流



『遊びの中の豊かな学び』を『主体的な学び』へとつないでいこう！

平成30年2月

日野町保小中一貫教育推進委員会

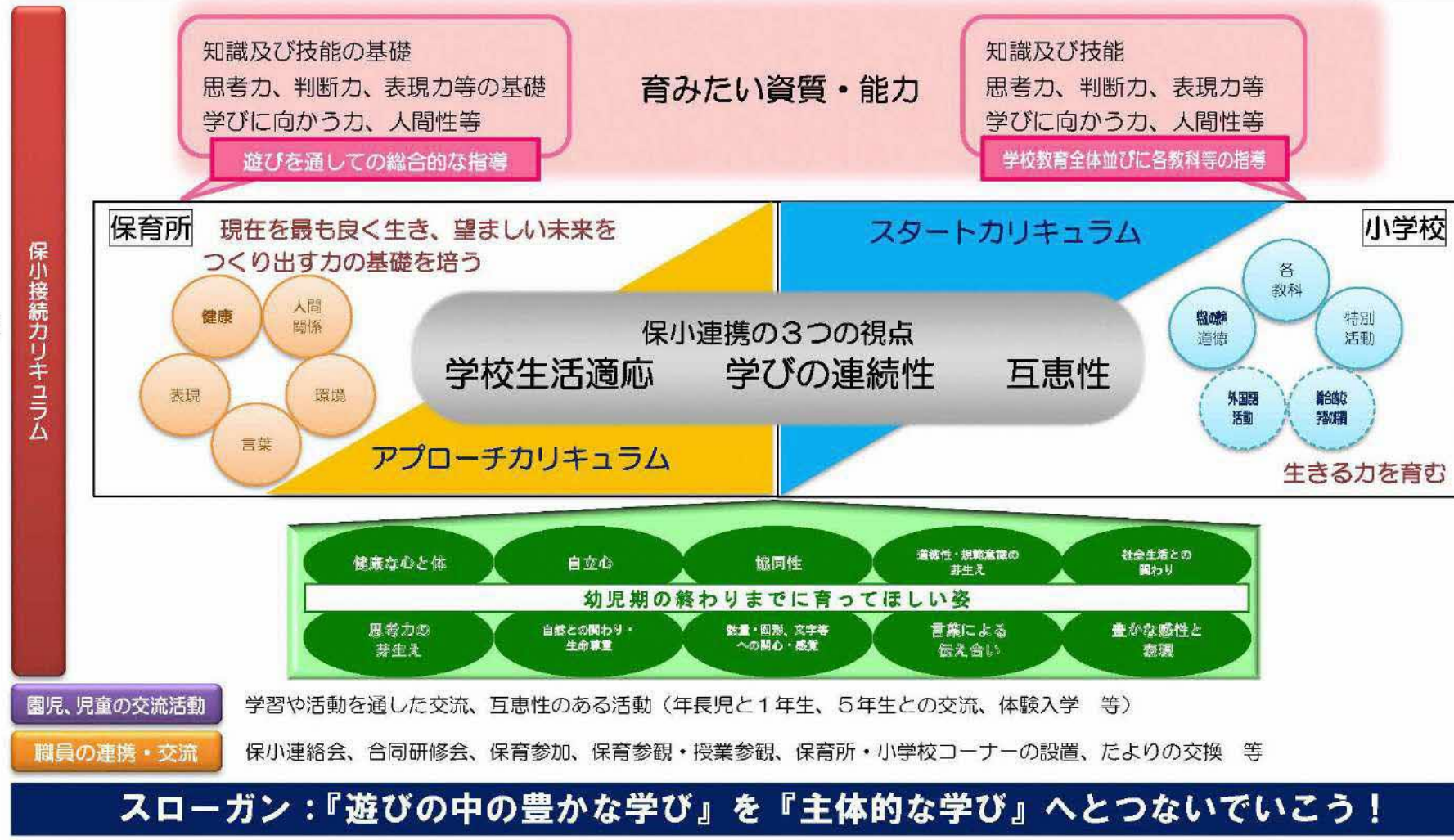
### 目次

はじめに	2
第Ⅰ章 基本的な考え方	3
1. 幼保小連携の動き	3
2. 日野町での取組	4
3. 日野町保小連携推進計画『保小連携プログラム』	4
第Ⅱ章 日野町学びの基礎を育むプログラム	6
Ⅱ-1 基本的な生活習慣	7
Ⅱ-2 コミュニケーション力	9
Ⅱ-3 自尊感情	11
Ⅱ-4 セルフコントロール力	12
第Ⅲ章 保小連携プログラム	13
1. 保育所と小学校の接続の必要性	13
2. 子どもたちの実態と保小連携	13
3. 育みたい資質・能力と保小の接続	14
4. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化	16
5. 方法と効果	20
6. 保育所、各小学校及び保小中一貫教育推進委員会の役割	20
7. 保小連携プログラムのイメージ図	22
Ⅲ-1 保小接続カリキュラム	23
1. 幼児期の教育から小学校教育へ	23
2. 保小連携の3つの視点	24
3. 保小接続カリキュラムの定義等	24
（1）アプローチカリキュラムの定義	24
（2）アプローチカリキュラム実施にあたっての留意点	24
（3）スタートカリキュラムの定義	25
（4）スタートカリキュラム実施にあたっての留意点	25
4. 保小連携3つの視点からのアプローチ	26
A 学校生活適応	26
B 学びの連続性	29
C 互惠性	32
5. アプローチカリキュラム	34
（1）指針計画	34
（2）実践事例	42
6. スタートカリキュラム	43
（1）単元等配当表	43
（2）各教科等単元計画	45
（3）実践事例	52
Ⅲ-2 園児、児童の交流活動	54
1. 年長児と小学校1年生の交流活動	54
2. 年長児と小学校5年生の交流活動	56
3. 小学校体験入学	56
4. 交流活動実践事例	57
Ⅲ-3 職員の連携・交流	61
1. 保小連絡会	61
2. 研修会、交流等	62
Ⅲ-4 つなごう！学びのルール	65

# 7. 保小連携プログラムのイメージ図 教育目標：心豊かに たくましく羽ばたく 日野の子の育成

日野町学びの基礎を育むプログラム 育てたい4つの力

基本的な生活習慣 コミュニケーション力 自尊感情 セルフコントロール力



## 5. アプローチカリキュラム

### (1) 指導計画

1月

活動名	ねらい	10の姿	育てたい力	主な内容	環境・構成	連携に向けた保育士の援助 (3つの視点との関連)	関連する行事
自分の身を守ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な活動や体験を通して、危険なことから身を守り、安全な行動がとれる。健</li> <li>・自分でよいこと悪いことを判断し、危険のないよう行動する。内</li> </ul>	ア エ	1, 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全かるたを楽しむ。</li> <li>・火災のときの避難の仕方を練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全かるたをかるた置き場に設置する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じてクラス全体で考え、安全意識を高め自分の身を守るとともに、まわりの安全をも考えて行動できるようにしていく。A C</li> </ul>	火災避難訓練
寒さに負けない丈夫な体をつくろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寒さに負けず積極的に体を動かし、体力・運動能力を高める。健 環</li> <li>・自分の体に関心をもち、健康な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。健</li> </ul>	ア	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外遊びや、マラソンを楽しむ。</li> <li>・手洗いうがいの練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊戯室や園庭にラインを準備する。</li> <li>・「早寝、早起き、朝ご飯、履き物そろえ」の大切さについて話をする。</li> <li>・冬の感染症について通知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かす遊びを工夫し楽しさを味わえるような時間設定をする。B</li> <li>・生活習慣を整え、生活リズムの大切さを分かりやすく伝えていきながら、進んで行う姿はほめてクラス全体に伝えていく。A</li> <li>・ねらいによるうがいの方法の違いを理解できるように、その都度知らせていく。A</li> </ul>	
友達と一緒に正月あそびを楽しもう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の中で自分の思いを主張したり、認め合ったりしながら遊びや活動を発展させる。内 言</li> <li>・正月遊びを十分に楽しむ中で、用具を大切にしたり決まりの大切さに気付き守ろうとしたりする。内</li> </ul>	ウ エ	234	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びや活動の中で感想を発表したり相談したり話し合ったりする。</li> <li>・正月遊びを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を発表したり、相談したり話し合ったりする場を設定する。</li> <li>・大縄跳び、短縄</li> <li>・かるた、すごろく、こま、けん玉等正月の遊び道具を準備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が思いを出し合い、よさを認め合って遊びや活動が進められるよう、必要に応じて助言したりヒントを出したりする。A B</li> <li>・率先して遊ぶとともに、冬休み中に正月遊びを体験した子供の姿も引き出し、他の子どもへの刺激にしていく。B C</li> </ul>	大縄跳び披露 紙芝居発表会 (個人技)かるた取り会
地域の人と一緒に楽しもう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の様々な人と関わり親しみをもつ。環</li> </ul>	オ	2, 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生との交流を楽しんだり、地域の人から餅つきのやり方を教わったりする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの気持ちに共感しつつ、喜びや悲しみを感じる場面やその表現に注意を払い、思いやりの気持ちを育てていく。A</li> </ul>	餅つき大会

## 6. スタートカリキュラム

### (1) 単元等配当表

時間	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
8:20～ 9:30  うきうき タイム		<p>あいさつ、健康観察、1日の予定、朝の準備（靴箱、ロッカー、机）、学習に入る前の心の準備（チャイム、トイレ）イ1[A]</p> <p>ねらい：担任と心を通わせながら心を落ち着かせ、学校で安心感をもって学習に向かえるようにする。</p>			
9:35～ 12:30  2～4 校時  休憩を含み 弾力的な 扱いを する	<p>入学式 (行事1)</p> <p>8年生とあそぼう オ23[A][B](学2/3)</p> <p>いちねんせいになっ たよオ14[A](学5/6)</p>	<p>いちねんせいになっ たよ イ1[A](生1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめと終わりのあいさつ</li> <li>・名前を言う</li> <li>・静かに待つ</li> <li>・休時間の着替え方</li> </ul> <p>身体測定 ア1[A][B](行事1)</p> <p>うたでなかよしにな ろうコ2[B](音2/3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌・手遊び歌</li> <li>みんなのせかい ケ1[B](国1/3)</li> <li>・あいさつ</li> <li>・いすの座り方</li> <li>・返事</li> <li>・教科書、筆箱の使い方</li> </ul> <p>いちねんせいになっ たよオ14[A](生1/2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下の歩き方、整列の仕方</li> <li>・靴箱、傘かけの使い方の確認</li> <li>・空下校のルール</li> <li>たのしいきょうしゅくイウ1[A][B](学1/2)</li> <li>・上級生の準備と見学</li> <li>・出席きの仕方・休学期間の過ごし方の確認</li> </ul>	<p>うたでなかよしにな ろうコ2[B](音1/3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌・手遊び歌</li> <li>みんなのせかい ケ12[B](国2/3)</li> <li>・聞き方、話し方</li> <li>・手の挙げ方、発表の仕方</li> </ul> <p>どっちがおおきな ケ1[B](算1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数セットの使い方</li> <li>・ゲーム</li> </ul> <p>しせいともちかた ク8[B](書2/3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運筆練習</li> <li>たのしいきょうしゅくイウ1[A][B](学1/2)</li> <li>・給食の準備・食べ方・片付け（手伝いあり）</li> </ul> <p>いちねんせいになっ たよオ14[A](生1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除の仕方を見学</li> <li>・トイレ、水道の使い方</li> <li>・ロッカーや机の中の整理等</li> </ul> <p>掃りの準備・終わりの会</p>	<p>うたでなかよしにな ろうコ2[B](音1/3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌・手遊び歌</li> <li>はきはきあいさつ ケ12[B](国2/3)</li> <li>・あいさつ</li> <li>・なぞなぞ</li> <li>・読み聞かせ</li> </ul> <p>うたでなかよしにな ろうコ2[B](音1/3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌・手遊び歌</li> <li>みんなのせかい ケ12[B](国2/3)</li> <li>・聞き方、話し方</li> <li>・手の挙げ方、発表の仕方</li> </ul> <p>みんなであそぼう アウ14[B][C](体1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館の使い方</li> <li>・鬼ごっこ</li> <li>・ころがしドッジボール</li> </ul> <p>しせいともちかた ク8[B](書2/3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉛筆の持ち方</li> <li>・字かくと姿勢</li> <li>・運筆練習</li> <li>たのしいきょうしゅくイウ1[A][B](学1/2)</li> <li>・給食の準備・食べ方・片付け（手伝いあり）</li> </ul> <p>掃りの準備・おわりの会</p> <p>交通安全教室 エ4[A](行事1)</p> <p>集団下校</p> <p>掃りの準備・終わりの会</p>	<p>うたでなかよしにな ろうコ2[B](音1/3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌・手遊び歌</li> <li>はきはきあいさつ ケ12[B](国2/3)</li> <li>・あいさつ</li> <li>・なぞなぞ</li> <li>・読み聞かせ</li> </ul> <p>うたでなかよしにな ろうコ2[B](音1/3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌・手遊び歌</li> <li>みんなのせかい ケ12[B](国2/3)</li> <li>・聞き方、話し方</li> <li>・手の挙げ方、発表の仕方</li> </ul> <p>みんなであそぼう アウ14[B][C](体1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館の使い方</li> <li>・鬼ごっこ</li> <li>・タイや遊び</li> </ul> <p>いちねんせいになっ たよオ14[A](生2/3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名前を書いてみよう</li> <li>・自己紹介の練習</li> </ul> <p>そうじのしかたをか んがえよう イウ4[A](学1/2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室掃除の仕方</li> <li>いちねんせいになっ たよオ14[A](生1/2)</li> </ul> <p>掃りの準備・終わりの会</p>
大切に したい こと	<p>○楽しみながら小学校生活に慣れるような活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の朝の活動に間違って、うきうきタイムを設定する。</li> <li>（歌や手遊び、ことば遊び、本の読み聞かせなど時間帯で取り組む。）</li> </ul>				

時間	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
8:20～ 9:30 うきうき タイム	あいさつ、今日の歌、健康観察、1日の予定、朝の準備の仕方、学習に入る前の心の準備イ1[A] ねらい：担任と心を通わせながら心を落ち着かせ、学校で安心感をもって学習に向かえるようにする。徐々に、朝の 歌を1年生が進行するようにしていく。	うたでなかよしにな ろうコ2[B](音1/3) ・歌・手遊び歌・校歌 みんなのせかい ケ12[B](国2/3) ・聞き方、話し方 ・手の挙げ方、発表 の仕方	うたでなかよしにな ろうコ2[B](音1/3) ・歌・手遊び歌・校歌 みんなのせかい ケ12[B](国2/3) ・聞き方、話し方 ・手の挙げ方、発表 の仕方	うたでなかよしにな ろうコ2[B](音1/3) ・歌・手遊び歌・校歌 みんなのせかい ケ12[B](国2/3) ・聞き方、話し方 ・手の挙げ方、発表 の仕方	うたでなかよしにな ろうコ2[B](音1/3) ・歌・手遊び歌・校歌 みんなのせかい ケ12[B](国2/3) ・聞き方、話し方 ・手の挙げ方、発表 の仕方
9:35～ 12:30 2～4 校時 休憩を含み 弾力的な 扱いを する	どっちがおおいか ク1[B](算1) ・なかまづくり ・ゲーム ・算数セットの使い 方  がっこうだいすき オ12[A][B](生1) ・2年生と一緒に学校 探検	ねんどであそぼう コ3[B](図1)  かずとそうじ ク3[B](算1) ・なかまづくりと数 ・ゲーム  かすとうすじ ク3[B](算1) ・なかまづくりと数 ・ゲーム	ゆうぐであそぼう ア14[A][B](体1) ・整列、行進等集団 行動 ・鬼ごっこ ・遊具の使い方  かすとうすじ ク3[B](算1) ・なかまづくりと数 ・ゲーム	かすとうすじ ク3[B](算1) ・なかまづくりと数 ・ゲーム  かすとうすじ ク3[B](算1) ・なかまづくりと数 ・ゲーム	かすとうすじ ク3[B](算1) ・なかまづくりと数 ・ゲーム  かすとうすじ ク3[B](算1) ・なかまづくりと数 ・ゲーム
13:30～ 14:45 掃除 5校時 掃りの 準備 終わりの 会	うたでなかよしにな ろうコ2[B](音1/3) (参観授業)  あいうえおのうた ケ3[B](国2/3)  そうじのしかたをか んがえよう イウ4[A](学1/3) ・教室掃除の仕方  掃りの準備・終わりの 会	あいうえおのうた ケ3[B](国2/3)  そうじのしかたをか んがえよう イウ4[A](学1/3) ・教室掃除の仕方  掃りの準備・終わりの 会	教室の掃除  そうじのしかたをか んがえよう イウ4[A](学2/3) ・廊下等の掃除の仕 方 がっこうだいすき オ1[A](生1/3)  掃りの準備・終わりの 会	教室の掃除  がっこうだいすき オ2[A](生1)  掃りの準備・終わりの 会	廊下・玄関の掃除  あいうえおのうた ケ3[B](国1)  掃りの準備・終わりの 会
大切に したい こと	○8週目は1単位の教科を16分ごとに内容を区切るなど工夫しながら教科学習に慣れるように学習を進めていく。				

☆幼児期の終わりまでに育ってほしい姿【健康な心と体・ア 自立心・イ 協同性・ウ 適性・エ 探究心・カ 社会生活の関わり・オ

思考力の芽生え・カ 自然との関わり・生命尊重・キ 数量等への関心・健康・ク 言葉による伝え合い・ケ 豊かな感性と表現・コ

☆2学期学びの基礎を育むプログラム《育てたい4つの力》【基本的な生活習慣…1 コミュニケーション力…2 目標感…3 セルフコントロール力…4】

☆保小連携3つの視点 【学校生活適応…A 学びの連続性…B 互恵性…C】

( 年 月 日 記録者: )

保小連携推進シート 1	
スタートカリキュラム 実施状況	
入学時の学級の様子	現在の学級の様子
保小接続カリキュラムの 成果	
今後の課題	
今年度の保小連携・ 交流活動の内容	

( 年 月 日 記録者: )

保小連携推進シート 2	
アプローチカリキュラム 実施状況	
重点的に指導してきた内容等	指導の経過
学級としての育ち	
小学校に向けての課題	
今年度の保小連携・ 交流活動の振り返り	

# 3. 架け橋期のカリキュラムの必要性

## 《これまでの取組の反省から》

### ○ひのっこ保育所卒園児のほぼ全員が日野学園に入学

→保育所と学校が連携しやすい。

→カリキュラムの目的である「学びの連続による主体的・対話的で深い学びに向けた資質・能力の育成」をより効果的に実現させることができる。

### 1. 教育内容の「連続性」の確保

(1) 教育観の統一：保育士と教職員が、幼児・児童にとっての「望ましい育ちの姿」や「遊びを通した学びの価値」について、より密接に話し合い、共通の認識を持つ。

(2) 「教育内容の接続」：保育所で育まれた幼児の主体性や非認知能力を、入学後の生活や学習指導の中で、意識的に引き継ぎ、さらに伸ばしていくための具体的な計画を立てる。

### 2. 幼児・児童一人一人の「成長の見通し」の共有

(1) 個別的な支援：幼児の発達段階、興味・関心の傾向、配慮を要する点等の情報

を、保育所から学校へ丁寧に引き継ぐことで、入学直後から児童一人一人に合ったきめ細やかな指導や環境整備を行う。

- (2) 「育てたい力」の継承：保育所での遊びが、学校のどの学びにつながるのかという見通しを共有し、授業で活かす。

### 3. 「環境のギャップ」の解消

- (1) 生活様式の変化：保育所の遊び中心の生活から、学校の時間割と集団行動中心の生活への移行は、児童にとって大きな環境の変化であり、ストレスであることを認識する。
- (2) スムーズな適応：このカリキュラムを通じて、教職員は保育所の生活を理解し、入学当初の学習活動に保育所での遊びの要素を取り入れたり、入学前の交流活動を計画的に行ったりすることで、幼児・児童の不安を軽減する。

☆ 架け橋期のカリキュラムは、「幼児・児童がどのように学びを深め、成長していくか」という教育内容の継続のために必要である。

☆ 「幼児・児童がどのように学びを深め、成長していくか」を、保育士と教職員とが議論を重ねることで、実践の深化を図る。

# ☆ 1つの保育所、1つの学校というメリットを活かした取組案

## 1. 保育士、教職員による合同研修会

- (1) ねらい：幼児教育と学校教育それぞれの教育観、指導法、幼児・児童の発達理解についての相互理解を深める。
- (2) 相互授業参観：教職員が保育所の遊びの様子を、保育士が学校の授業を参観し、指導の違いや幼児・児童の姿を共有する。
- (3) 合同研修：保育士と教職員とが一堂に会して学び合い、共通の教育理念を構築する。

## 2. 「幼児・児童の育ち」を焦点化した連携

- (1) 目的：入学後の学習や生活の基盤となる、保育所での取組と幼児の育ち及び一人一人の幼児の特性を丁寧に引き継ぐ。
- (2) 「保学連携推進シート」の作成と協議：保育所と入学後の実践の様子、幼児・児童（学級）の育ちについて、保育士と教職員とが直接協議し、それぞれの実践の具体について理解し、以後の指導に役立てる。
- (3) 個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成：保育所が作成する計画について、保育士と教職員とが直接協議する場を設け、幼児・児童の実態や願いを

詳細に共有する。

### 3. 「共通の遊び場・学びの場」の設定

- (1) 目的：児童が環境の変化を乗り越え、学校への安心感と期待感を高める。
- (2) 施設の相互活用：保育所の幼児が、学校の体育館、図書館、校庭、学校畑等を、保育活動の中で日常的に利用する。
- (3) 交流学習：保育所の幼児と学校の児童がチームになり、お互いの施設や近隣の自然を利用した共通の遊びや探究活動を、年間を通じて計画的に行う。

### 4. 1年生とのカリキュラム連携

- (1) 目的：入学後も、保育所での「遊び」を維持・発展させる。
- (2) 生活科と保育活動の合同実践：生活科の単元と保育所の活動をリンクさせ、合同で実施する。これにより、教職員は遊びの重要性を再認識し、児童は保育所での活動が学校でも活かされることを実感できる。
- (3) スタートカリキュラム：入学直後に、保育所で経験した遊びや活動を振り返る時間を意図的に設け、それが学校の学習にどうつながるのか自覚させる。

# 保学協働による架け橋期の教育の充実～架け橋期のカリキュラムの作成及び評価の工夫によるPDCAサイクルの確立～

以下に記載している内容は、ほぼ「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」より抜粋（一部変更）しています

- ・幼児期は遊びを通して小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う時期であり、小学校においてはその芽生えを更に伸ばしていくことが必要。そのためには、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することが重要。
- ・一方、幼児教育と小学校教育は、他の学校段階等間の接続に比して様々な違いを有しており、円滑な接続を図ることは容易でないため、5歳児から小学校1年生の2年間で「架け橋期」と称して焦点を当て、0歳から18歳までの学びの連続性に配慮しつつ、「架け橋期」の教育の充実を図り、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくることが重要。
- ・架け橋期の教育を充実するためには、幼保小はもとより、家庭、地域、関係団体、地方自治体等、子どもに関わる全ての関係者が立場を越えて連携・協働することが必要。

## 架け橋プログラムの実施にあたり、関係者で共有し大切にしていきたい視点

- 架け橋期を通じて、未来を担う子どもに学びや生活の基盤を育み、持続可能な社会の創り手となることができる力の基礎を育みましょう
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、架け橋期はもとより、その前の時期、さらにその後の学びのプロセスの基盤となっていきます
- 全ての子どもの可能性を引き出すため、ウェルビーイングを保障する意識を持ちましょう
- 保学の教育のつながりを意識した活動が、子どもの豊かな体験を生み出し、主体的・対話的で深い学びの実現につながります
- 保育士、教員が、気軽に話し合える関係を構築し、対話を大切にするとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて協働して取り組み、発信しましょう
- 全ての保育士、教員が関わるプロセスや、組織的な体制づくりを大切に、接続に関する取組を年間計画に位置付け、持続的・発展的な取組を目指しましょう
- 形式的な取組とならないよう、家庭や地域も一緒に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、子どもの姿を起点に話し合いを深めましょう

## 架け橋プログラムのねらい

- 幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育と学校教育の関係者が連携して、カリキュラム・教育方法の充実・改善にあたることを推進
- 3要領・指針、特に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の正しい理解を促し、教育方法の改善に生かしていくことができる手立てを普及
- 架け橋期に保育士が行っている環境の構成や子どもへの関わり方に関する工夫を見える化し、家庭や地域にも普及
- 幼児期・架け橋期の教育の質保障のための枠組みを構築し、データに基づくカリキュラム・教育方法の改善を促進

## 架け橋期のカリキュラム開発のイメージ

- ◆開発主体 架け橋期のカリキュラム開発会議を構成
- ◆開発方法 開発会議において、手引き（初版）や参考資料（初版）を活用しつつ開発。架け橋期のカリキュラムを踏まえつつ教育課程編成・のカリキュラムを改善
- ◆開発内容 架け橋期のカリキュラム、架け橋期のカリキュラムの実施に必要な研修、教材としての環境の活用等の開発

# 架け橋期のカリキュラム開発会議

## 【構成員】

- ・ひのっこ保育所長、担当保育士
- ・日野学園校長、担当教員
- ・教育委員会事務局、健康福祉課
- ・大学教員
- ・ひのっこ保育所保護者会代表、日野学園PTA代表
- ・学校運営協議会会長、家庭支援チーム代表
- ・有識者

## 【取組内容】

- 幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）、参考資料（初版）を活用しつつ、
- ・架け橋期のカリキュラムの開発
  - ・カリキュラムの実施に必要な研修、教材としての環境の活用等の開発
  - ・持続的・発展的な架け橋期のカリキュラムに必要な支援

# めざす方向性

○架け橋期のカリキュラムについては、保学が協働し、共通の視点を持って教育課程や指導計画等を具体化できるよう、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を手掛かりとし、育成を目指す資質・能力を視野に入れながら**策定**できるよう工夫する。そして、**保育士、教員が一緒に振り返って評価し、改善・発展**させていく。

○取組全体を通じて、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を手掛かりに、所長・校長のリーダーシップと町教委の支援の下、**保育士と教員が、子どもの育ちを中心に据えた対話を通して相互理解・実践**を深めていく。

# 進め方

- 進め方は、「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」（P15～P20）を参考とする。
- フェーズ1 基盤づくり（令和5年度）
  - フェーズ2 検討・開発（令和6年度）
  - フェーズ3 実施・検証（令和7年度）
  - フェーズ4 改善・発展サイクルの定着（令和8年度）〔日野町教育振興基本計画【第Ⅳ期】開始〕

# 経費（予算）

- |                  |               |
|------------------|---------------|
| ○開発会議委員報酬        | （令和5年度～令和8年度） |
| ○研修会講師謝金等        | （令和5年度～令和8年度） |
| ○教材開発、環境整備にかかる経費 | （令和6年度～令和8年度） |
| ○印刷製本費           | （令和7年度）       |

※「架け橋期のカリキュラム開発会議」事業説明資料（令和5年8月作成）



# 4. 架け橋期のカリキュラム開発の実際

## (1) 架け橋期のカリキュラム開発会議での議論

### 《開発会議委員》

鳥取大学教授（委員長）  
元特別支援学校教員  
日野学園学校運営協議会会長  
日野町家庭教育支援チーム代表  
ひのっこ保育所保護者会代表  
日野学園PTA代表  
日野町健康福祉課保健師  
ひのっこ保育所所長  
ひのっこ保育所担当保育士  
日野学園校長  
日野学園担当教員

### 《アドバイザー》

西部教育局幼児教育担当指導主事  
西部教育局保育・幼児教育専門員

### 《事務局》

日野町教育委員会教育長  
日野町教育委員会事務局教育課長  
// 担当指導主事  
// 保育担当主任

# 《開発会議の経緯》

年・月	内容
令和5年12月	令和5年度第1回開発会議 ・アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの実施状況、幼児・児童の変容および課題 ・日野町における保小研修の内容、参加状況及び課題 ・目指す方向性
令和6年2月	令和5年度第2回開発会議 ・日野町の育てたい4つの力 ※日野町学びの基礎を育むプログラム
令和6年6月	令和6年度第1回開発会議 ・架け橋期にめざす子ども像と育みたい力 ・保学連携の視点 ・架け橋期のカリキュラム（全体計画）記載事項
令和6年10月	令和6年度第2回開発会議 ・架け橋期のカリキュラム（5歳児）
令和7年2月	令和6年度第3回開発会議 ・架け橋期のカリキュラム（1年生）
令和7年6月	令和7年度第1回開発会議 ・架け橋期のカリキュラム（1年生） ・スタートカリキュラム実施状況と課題等
令和7年10月	令和7年度第2回開発会議 ・スタートカリキュラム単元等配当表 ・架け橋期のカリキュラム（5歳児）実施状況

# 《架け橋期のカリキュラム》

○期待する（めざす）子ども像 ※日野町学びの基礎を育むプログラム「育てたい4つの力」を踏まえて

- ・心と体がいきいきしている子
- ・自分の思いを表現する子
- ・自分もまわりの人も大切にする子
- ・夢中になってやりきる子

○学びのプロセス

- ・（5歳児）過去の体験やつながり・遊びの中での気づき：今までの体験をきっかけに興味・関心を広げ、いろいろなことに気づき、発見することを楽しむ。また、その気づきから「なんでだろう」という好奇心を育て「知る」ことを楽しむ。
- ・（1年生）自覚的な学び：学ぶことへの意欲をもち、各教科の学習内容について授業を通して個別の学習活動や協働的な学習活動をし、学んでいく。

- 保育所で展開される保育内容・活動（５歳児）
  - ・学校との関連活動を明示
- 生活科を中心とした各教科等の単元構成等（１年生）
  - ・保育所との関連単元を明示
- 指導上の配慮事項
  - ・保育士、教師等の関わり
  - ・環境の構成、環境づくり
  - ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を明示（５歳児）

## 《スタートカリキュラム》

- 架け橋期のカリキュラムが基盤
  - ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をつなぐ。
- 期間；保育所から学校へ、幼児・児童の集団がほぼ変わらないことから、10日間のカリキュラムとする。
- この期間に特に大切にしたいこと
  - ・楽しみながら学校生活に慣れるような活動を行う。
  - ・保育所の朝の活動に関連づけて、うきうきタイムを設定する。

## (2) ワーキンググループでの取組

### 《構成員》

ひのっこ保育所主任保育士  
ひのっこ保育所 5 歳児担任  
日野学園副校長  
日野学園第 1 学年担任

### 《事務局》

日野町教育委員会事務局担当指導主事

# 《ワーキンググループの経緯》

開発会議の検討内容等を受け、実際のプログラム作成を行う。

年・月	内容
令和6年7月	令和6年度第1回ワーキンググループ ・ワーキンググループの活動内容
令和6年9月	令和6年度第2回ワーキンググループ ・カリキュラムデザインシート ・架け橋期のカリキュラム（5歳児）
令和7年1月	令和6年度第3回ワーキンググループ ・カリキュラムデザインシート ・架け橋期のカリキュラム（1年生）
令和7年3月	令和6年度第4回ワーキンググループ ・アプローチカリキュラム実施状況
令和7年6月	令和7年度第1回ワーキンググループ ・スタートカリキュラムの実施状況 ・架け橋期のカリキュラム（1年生）
令和7年9月	令和7年度第2回ワーキンググループ ・スタートカリキュラム単元等配当表

# (3) 架け橋期のカリキュラムとスタートカリキュラム

架け橋期のカリキュラム		5歳児				日野町																																			
共通の視点として考えられる項目		I期 (4・5月)	II期 (6・7・8月)	III期 (9・10・11・12月)	IV期 (1・2・3月)																																				
期待する子ども像 (めざす子ども像)		○心と体がいきいきしている子		○自分の思いを表現する子	○自分もまわりの人も大切にできる子	○夢中になってやりきる子																																			
育みたい資質・能力		◎実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能の基礎」		◎未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力などの基礎」		◎学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性など」																																			
遊びのプロセス		◆過去の体験やつながり・遊びの中で気づき：今までの体験をきっかけに興味・関心を広げ、いろいろなことに気づき、発見することを楽しむ。また、その気づきから「なんでだろう」という好奇心を育て「知る」ことを楽しむ。 ○体験の中で気付く・分かる。 ○気づきをきっかけにしながら遊びを進める。 ○やりたいことをやり続けることで夢中になる。					○遊びを通じてものの性質や仕組みなどを感じ取る・気づく。 ○自分と異なる考えに気づき互いの考えなどを共有する。 ○遊び方を考える・予想する・試す・工夫するなどをする。					○経験したことや感じたこと、考えたことなどを表現する。 ○友だちと考えを共有し、共通の目的に向かって取り組む。 ○自分のやりたいことをあきらめずにやり遂げる。																													
遊びのプロセス		好きな遊びを見つけ 友だちと一緒に遊ぶ		友だちと思いや考えを出し合いながら 試したり工夫したりしながら遊ぶ		共通の目的に向かって、互いの思いや考えを受け入れ ながら、自分たちで遊びを進めていく楽しさを味わう		共通の目的に向かって、工夫し合ったり、認め合ったりし ながら、協同して遊ぶ楽しさや充実感を味わう																																	
保育内容・活動 ※主な活動や遊び ◆1年生との関連		*お手伝い隊、虫捕り、草花鑑み、野菜の苗植え、異年齢児との散歩や散歩 【年長になったよ】年長としての自覚をもち、思いやりをもって年下の子に接したりいっしょに遊んだりする。 【忍者のように動き回ろう】固定器具や運動道具に興味を持ち、体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。(鉄棒、跳び箱、マット、縄跳び、ゲームボックスなど) 【春の自然を感じよう】自然に興味を持ち、虫を飼ったり、草花を摘んだりして春を感じる。		*泥遊び、色水遊び、水に浮く玩具遊び 【調べるって楽しいな】◆砂場遊びや色水遊びなどを通して、素材や性質の違いに気づき、興味をもって調べたり発見したりしたことを共有することを楽しむ。 【動物になって水遊びをしよう】プール内をワニ歩きで歩いたり、潜ったりしながら、友だちと一緒にプール遊びを楽しむ。 【夏の自然を感じよう】◆夏の生き物や草花を遊び内に取り入れて、遊びを進めていく楽しさを味わう。 【いろいろな物を作ってみよう】積み木、LoQ、レゴブロックなどで複雑な立体物を作ることに挑戦する。		*運動会、マラソン大会、たのしみ会、クリスマス会 【ダンス・競技をしよう(運動会)】友だちと一緒にいろいろな競技をする中で、自分の力を発揮し、友だちと考えを出し合い、工夫したり協力したりして遊ぶ楽しさを味わう。 【秋の自然に触れよう】◆秋の自然を遊びに取り入れて、自分の考えを出し合い、工夫したり、協力したりしながら、遊びを進め実現していく楽しさを味わう。 【しりとり遊びをしよう】身につけた言葉を活用して、言葉をつなげる活動を行い、どれくらい続けられるか、言葉をつなげていく楽しさを味わう。 【劇を楽しもう】友達と一緒に絵本や物語などに親しみ、イメージを広げたり、動きや言葉で表現したりすることを楽しむ。 【カードをどう使う】カードやイラストを活用して、ものの名前や正確な発音に親しむ。かるたやイラスト当てを行い、言葉に身をつける。		*給食当番、うめ組発表会、もちつき会、おわかれ会、卒園式 【お正月遊びに親しもう】お正月遊びのすごろくやかるたなどのおもてたい意味や由来を知ったり、友達と楽しく遊んだりする。 【冬の自然に触れよう】◆冬の自然を遊びに取り入れて、自分の考えを出し合い、工夫したり、協力したりしながら、遊びを進め実現していく楽しさを味わう。 【発表会をしよう】自分の得意なことや得意になったことを発表する。 【手紙を書こう】卒園児と在園児が感謝の気持ちをお互いに伝え合う。自分自身の成長を実感するとともに、お世話になった方々への感謝の気持ちを深める。																																	
指導上の配慮事項		●年長としての自覚を持ち、年下の子がしてほしいことを考えながら、意欲的に関わろうとする姿を見守ったり、認めたりする。また、いっしょに遊んでいて困った時には、必要に応じて援助する。 ●約束やきまりを確認し合う機会をもち、守ろうとする姿を認めたり、必要に応じて思い出し気づけたりするような言葉かけを繰り返すことによりルールを身につけられるようにしていく。 ●子どもがのびのびと動き回れるように取り組めるように用具の種類を準備して場を設定し、動きが上手にできるように工夫して取り組むことができるように見守る。 ●用具や道具の使い方を再確認し、安全に過ごしたり遊べたりするようにする。 ●子どもとの驚きや発見に共感し、身近な自然に関心をもてるように捕虫網を準備する。 ○生活習慣や園生活のきまりを見直したり、当番活動の内容について話をしたりし、期待をもって取り組めるようにする。 ○散歩を通して、地域の自然や植物の名前等に興味や関心をもてるよう園庭等を準備する。										●汗のたれ、水分補給などを自分からしようとしている時は見守り、必要に応じて言葉をかける。 ④●形や組み合わせが合うか試したり、考えたり、工夫したりしている姿を認め、その姿や(立体的に)作ろうとする)子どもたちの気づきや発見を他の子へ伝えていく。 ●水の危険性について知らせ、約束を守って安全に遊べるようにする。 ①●砂場遊びや色水遊びを通して、友だち同士で素材や性質の違いに気づかせ、アイデアを出し合わせる。 ①●自分たちで興味をもって調べたり、発見したりしたことを活用して遊びを進めようとする場面を大切に、価値づけ。 ●子ども同士の気持ちの行き違いやトラブルは見守ったり、仲立ちをしたりし、気持ちの切り替えができるようにする。 ●異年齢活動の場では5歳児を中心に活動をするように工夫し、自信をもって取り組めるようにする。 ●夏野菜の生長を観察したり、生き物を間近で見たり触れたりすること、植物の成長や生き物の種類の変化などにに対する気づきを大切に、動物園との関わりの中で愛情をもって関われるようにする。 ②●プールにフープを配置して通ることで、ワニ歩きで歩いたり、象のように潜ったりしながら、友だちと一緒にプール遊びを楽しむ。 ●夏野菜の栽培と一緒にする中で、生長や「食」に関心をもてるようにする。										①●●友だちと一緒に運動遊びを取り組めるような場や道具・用具などを準備し、多様な動きを経験する中で体の動きを調整できるように配慮する。マラソンでは自分なりの目標を持ち、最後まで諦めずに向かえるように働きかけていく。 ②●落ち葉やススキ、わらなど秋の自然に触れ、子ども達が秋の自然を取り入れた遊びを相談したり、協力して実現させたりできるような時間を確保する。 ③●身近な事象や動物園や十分に触れ合い、直接的な体験ができるようにする。 ④●友だちと一緒に絵本や物語を楽しみながら、お話のイメージを共有できるような場をつくり、一緒に動きや話し方などの表現する楽しさや、共通の目的に向かって協力しやり遂げる満足感が味わえるようにする。 ●なかよし活動など異年齢の関わりを通して、年下の子への思いやりの気持ちがもてるようにする。 ②●集めた木の葉や木の葉を分類し、形や種類の違いに気付くように声をかけたりする。 ③●言葉集めができるように図鑑を準備したり、イラストを掲示したりして物の名前に興味を持てるようにする。 ④●みそ汁作りやクッキー作りの体験を通して、「食」に関して興味や関心をもたせ、異年齢児にも食べようという姿を育てる楽しさを感じたり、進んで食べようとしたりすることが「育つ」ようクッキングの機会を設ける。 ④●カードやイラストを掲示し、物や言葉に興味を持てるようにする。										●●就学への期待と喜びを共有しながら、自分たちで行動しようとする姿を見守っていく。1日の流れと一つ一つの活動時間の始まりを表示することで、見て分かるようにする。子どもが自分で時間に気づき、行動できるようにしていく。 ④●卒園に向けての準備や行事に取り組む中で、身近な人や物に感謝の気持ちをもちようとしていく。 ●子どもが考えたり決めたことを受け止め、やり遂げられるように援助する。 ●自然に触れる中で、試したり発見したり考えたりする楽しさを味わえるようにする。 ③●自分の得意なことや得意になったことを、年下の友だちの前で発表することで、やり遂げた満足感が味わえるようにし、自信に繋げていく。 ④●友だちと一緒に今まで経験してきた遊びを思う存分楽しめるように場や十分な時間を設ける。 ①●●伝統的な行事や文化について話をし、伝承遊びを楽しめるようにやり方を教えたり、励ましたりする。すごろくやカルタなど正月遊びやカード遊びなどを通して、文字や数への関心を深められるようにする。 ②●水や雪など冬の自然に触れ、子ども達が秋の自然を取り入れた遊びを相談したり、協力して実現させたりできるような時間を確保する。									
幼児・児童の交流・ 保育士・教職員の交流		5月 評価検討会 5月 春のふれあい 6月 保育参観 7月 評価検討会 8月 合同研修会 8月 保育参観 10月 春のふれあい収穫 10月 5歳児・1年生交流 11月 授業参観 12月 評価検討会 1月 体験入学・説明会・PTA活動 3月 評価検討・引継会																																							
家庭や地域との連携		・保護者会総会で園の方針や大切にしたいことを伝え、保護者と子どもの育ちを共有していくことで安心感をもってもらう。 ・保育参観やクラス懇談を通して、子どもの様子や架け橋期プログラムの説明をして就学に向けた見通しがもてるようにすることで就学への期待や不安に寄り添う。																																							
評価		・新しい環境や「年長」という立場に誇りを感じ、自分なりに安心して好きな遊びに取り組んでいる。 ・身近な動物や春の自然に興味を持ち、自分から関わろうとしている。																																							
10の姿		健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い 豊か感性と表現																																							

※「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、達成させようと強制するものではなく、あくまで「育ってほしい姿」の方向性です。同じ経験をしていても、子どもにはそれぞれ個性があるため、育ち方は異なります。そのため、すべての子どもに、必ずしも「10の姿」が共通して見られることはありません。



スタートカリキュラム

時間	1 日 目		2 日 目		3 日 目		4 日 目		5 日 目		
8:20			あいさつ、健康観察、1 日の予定、朝の準備（脱箱、ロッカー、机）、学習に入る前の心の準備（チャイム、トイレ） イ1A ねらい：担任と心を通わせながら心を落ち着かせ、学級で安心感をもって学習に向かえるようにする。								
～											
9:30		生	どきどきわくわく1 ねんせい イ1A ・はじめと終わりのあいさつ ・名前を言う ・静かに待つ ・体操服の着替え方	学	初等ブロック集会 ウ2C ・校歌 ・先生紹介 ・掃除・給食・学校のきまり ・特別支援教育理解 ・レクリエーション	音	うたっておどって なかよくなろう コ2C ・歌・手遊び歌	音	うたっておどって なかよくなろう コ2C ・歌・手遊び歌		
うきうきタイム		生		学		国	よろしくね ケ1B ・あいさつ ・読み聞かせ ・なぞなぞ	国	よろしくね ケ12B ・あいさつ ・読み聞かせ ・なぞなぞ		
		生		学		国		国			
9:35	入学式	音	うたっておどって なかよくなろう コ2C ・歌 ・手遊び歌	体	からだほくしのう んどうあそび アウ14B C ・体育館の使い方 ・体ほぐし ・鬼ごっこ	図	すがこうさくがは しまるよ コ3A C ・すきなものの あしな ・すきなものを 教えてあげる （絵を見せながら発表） ・てくてくてく 作り	音	うたっておどって なかよくなろう コ2C ・歌・手遊び歌		
～		音	がっこうだいすき イ1A ・学校の中を探検し、トイレに行く。	学	国	図	国	なんていうのかな ケ12B ・聞き方、話し方 ・手の挙げ方、発表の仕方			
12:20		生		学		図	国				
2校時		行	きこえるよ ケ1B ・あいさつ ・いすの座り方 ・道事 ・教科書、筆箱の使い方 ・読み聞かせ	行	身体測定 イ1A C	算	わくわくすたあ と ケ1B ・数字の歌 ・算数セットの 使い方 ・ゲーム	体	からだほくしのう んどうあそび アウ14B C ・体育館の使い方 ・鬼ごっこ ・ころがしドッジボール		
～		行	国		行		算		体		
4校時	行	国		行		算		体			
休憩を含み弾力的な扱いをする		生	どきどきわくわく1 ねんせい オ1A ・廊下の歩き方、整列の仕方 ・脱箱、車かかけの使い方 ・暗黙し ・給食を食べよう ・給食の準備・食べ方・片付け	学	縦断時短形式 ウ2C ・自己紹介 ・レクリエーション ・役割分担決め ・班の目標決め ・班写真撮影 ・暗黙し ・給食を食べよう ・給食の準備・食べ方・片付け	書	もじをかきしせい ク3B ・鉛筆の持ち方 ・字をかく姿勢 ・運筆練習	書	もじをかきしせい ク3B ・鉛筆の持ち方 ・字をかく姿勢 ・運筆練習		
		生	使 ・役割り分担決め ・班の目標決め ・班写真撮影 ・暗黙し ・給食を食べよう ・給食の準備・食べ方・片付け	学	国	書	国	書	国		
		学		学		学		学			
給食					給	食	食				
13:35	5校時 帰りの会	学	そうじのしかたを かんがえよう イウ4A ・教室掃除の仕方 ・掃除の仕方 ・給食の準備・食べ方・片付け	図	すがこうさくがは しまるよ コ3A C ・すきなものを あしな ・すきなものを 教えてあげる	生	どきどきわくわく1 ねんせい オ14A ・掃除の仕方を見学 ・トイレ、水道の使い方 ・ロッカーや机の中の整理等	学	そうじのしかたを かんがえよう イウ4A ・教室掃除の仕方 ・掃除の仕方 ・給食の準備・食べ方・片付け		
～		生		図		生		生	どきどきわくわく1 ねんせい オ14A ・自己紹介カード ・学校探検		
		生		図		生		生			
		生		図		生		生			
大切にしたいこと	○楽しみながら小学校生活に慣れるような活動を行う。 ・保育所の朝の活動に間違っけて、うきうきタイムを設定する。 （歌や手遊び、ことば遊び、本の読み聞かせなど時間を帯て取り組む。）										

時間	6日目		7日目	8日目	9日目	10日目
8:20	あいさつ、今日の歌、健康観察、1日の予定、朝の準備の仕方、学習に入る前の心の準備イ1A ねらい：担任と心を通わせながら心を落ち着かせ、学級で安心感をもって学習に向かえるようにする。 徐々に、朝の会を1年生が進行するようにしていく。					
～						
9:30	音	うたっておどって なかよくなろう コ2C ・歌・手遊び歌・校歌	音	うたっておどって なかよくなろう コ2C ・歌・手遊び歌・校歌	音	うたっておどって なかよくなろう コ2C ・歌・手遊び歌・校歌
うきうきタイム	国	ほんがたぐさん ケ2B ・ことばあそび ・読み聞かせ	国	みんなにはなそう ケ12B ・聞き方、話し方 ・手の挙げ方、発表の仕方	国	みんなにはなそう ケ12B ・聞き方、話し方 ・手の挙げ方、発表の仕方
	国		国	国	国	国
9:35～12:20	国	なかよくになりたい （よししくね・どきどきわくわく1） ケ2A C ・名前を書いてみよう ・自己紹介の練習	算	わくわくすたあと ク1B ・数字の歌 ・仲間づくり ・数、ゲーム ・算数セットの使い方	算	わくわくすたあと ク3B ・仲間づくり ・算数セットの使い方 ・数、ゲーム
2校時～4校時	生	算	算	算	算	算
休憩を含み弾力的な扱いをする	生	生	生	生	生	生
	体	体	体	体	体	体
	体	体	体	体	体	体
	体	体	体	体	体	体
	生	生	生	生	生	生
	生	生	生	生	生	生
	学	学	学	学	学	学
給食	給	食	給	食	給	食
13:35～14:55	学	そうじのしかたを かんがえよう イウ4A ・教室掃除の仕方 ・掃除の仕方 ・給食の準備・食べ方・片付け	は	うたっておどって なかよくなろう コ2C ・歌・手遊び歌・校歌	学	そうじのしかたを かんがえよう イウ4A ・教室掃除の仕方 ・掃除の仕方 ・給食の準備・食べ方・片付け
5校時	生	がっこうだいすき ケ3A ・給食の準備・食べ方・片付け	は	あいうえおのうた ケ3B ・ことばあそび	生	あいうえおのうた ケ3B ・ことばあそび
終わりの会	生	国	国	国	生	国
大切にしたいこと	○2週目は1単位時間の教科を15分ごとに内容を区切ったり、児童の実態に応じて連続させたりするなど工夫しながら教科学習に慣れるように学習を進めていく。					

☆幼児期の終わりまでに育ってほしい姿  
【健康な心と体…ア 自立心…イ 協同性…ウ 道徳性・規範意識の芽生え…エ 社会生活との関わり…オ 思考力の芽生え…カ 自然との関わり・生命尊重…キ 数量等への関心・感覚…ク 言葉による伝え合い…ケ 豊かな感性と表現…コ】  
☆日野町学びの基礎を育むプログラム《育てたい4つの力》  
【基本的な生活習慣…1 コミュニケーション力…2 自尊感情…3 セルフコントロール力…4】  
☆保学連携3つの視点 【学校生活適応…A 学びの連続性…B 互恵性…C】